

私達についてとこれまでの活動

みなさんは、「フューチャーセンター」というものをお聞きになったことがあるでしょうか？

1990年代に北欧で生まれたフューチャーセンターは、多様な人々による「立場を超えた対話」を通じて、ひとつの正解が無いような複雑な課題を解決し、様々なアクションを起こしていく、新しい未来へ向かうイノベーション創造の“場”として、世界各国の政府や企業を中心に広がってきました。

日本では2007年頃に企業を中心に導入が始まり、近年では、行政や大学、団体などにも急速に広がってきています。

私達「FutureCenterFUKUYAMA」は、こうした趣旨に賛同し、福山や備後～瀬戸内の未来を自分たちの手で創っていくと、市内外から集まった有志のメンバーで構成されている「集合体」です。



これまでの3年の間に開催してきたセッションは、福山だけでも10回以上となり、参加者数も延べ200名を超えるようになってきました。さまざまな街の未来像が生まれ、場所も中心街だけでなく、鞆の浦や熊野、神石にまで広がってまいりました。2015年からは、里山資本主義社会を提唱される藻谷浩介さんとも合流しました。

参加者の中には、遠く九州や関西から一度も訪れたことのない福山にいらっしゃる方も出てまいりました。

福山で知り合ったメンバーが東京で再度集まったり、そこに新たに参加した方が、次の機会に来福されるなど、これまで考えたこともなかったような新しいつながりが生まれてきました。そこから、また、新しいアクションが巻き起こってきている様子も聞こえて来るようになりました。



日本におけるフューチャーセンター：2014年
出典：一般社団法人Future Center Alliance Japan (FCAJ)

2013年の夏・・・

備後地方にはじめて誕生したコワーキングスペース「Ha-Lappa」に於いて、「2035年の福山」と題したフューチャーセッションという対話のワークショップを初めて開催いたしました。（フューチャーセンターでの主活動である対話のワークショップの呼称です。ジャズセッションのように参加者同士の対話を重ねていくのでそう呼びます）

ネットを通じた公募での呼びかけに、福山市内の方はもちろん、夏休みで帰省していた東京の企業人、Uターンで新しく事業に取り組んでいる方、そして広島市内で既にフューチャーセンターに取り組んでいる若者達が参加し、そうありたい未来の福山の姿を一緒に描いていき、そうなるためのアイデアを出し合いました。



私達の思い

3年前の、ほんの十数名によるセッションから始まったものが、少しずつその輪を広げ、少しずつ新しいつながりをつくり、その周りに良い未来への兆しが生まれてきている様に思います。

それは、もちろん場に参加された方々自身が巻き起こしているものです。

しかし、一方で・・・

「何かしたいけど動けない」「どうして行けばいいのか、わからない」「重いことをするのは難しい」という方々も沢山いらっしゃることがわかってきました。

また、色々な活動をされているのに「うまく行かない」「広がっていかない」「連携できそうなのに繋がれない」といった声もよくお聞きします。

「はじめの一歩」や「新しい繋がり」を創るのは簡単に見えて、大きな勇気が必要な、とても難しいものです。

それを、どうやって得ていけばいいのでしょうか？

はじめの一歩を踏み出すためには、何が必要なのでしょうか？

今回、開催する「参加型シネマワークショップ」は、まさにこうした問いかけをテーマに制作された映画「未来シャッター」を題材に対話し、そうした思いを持つ皆さんと「一緒に、はじめの一歩を創ろう」との思いで企画したものです。そして、これまでのセッションにご協力いただいた「Ha-Lappa」を運営されているフューレックさんの力添えて、「広島県創業支援意識啓発事業」の一環として開催できるようになりました。

参加型映画「未来シャッター」とは？

「未来シャッター」は、「今、私達が社会や街に閉塞感を感じているのはなぜか？」を問いかけにしたフューチャーセッションで企画され、有志の手によって生み出された映画です。その制作には通常の映画制作の常識を超える多様なメンバーが協力し合い完成しました。これまでに多くの自治体や商工会などの団体、大学などで対話のワークショップとともに上映されてきました。直近では江戸東京博物館大ホールで開催されています。



大江戸博物館大ホールでの「未来シャッター」上映会セッション

登場人物は、ほぼ全員が蒲田を中心とした街の人々で、ほとんどが実在する自分自身の役として登場されます。中心となる女性をはじめ、主に3人の視点が入り替わりながら物語は進んでいきますが、その他にも様々なシーンで様々なキーマンが現れ、それぞれの場面で主人公にとって、おそらく私達にとっても「大切な言葉」を残していきます。

様々なシーンと登場人物が行き交う万華鏡のようなこの映画には、少し違和感を感じるかもしれません。それは、「自分のシャッターはどうやったら開くのだろうか？」という問いかけを考える題材でもあります。「未来シャッター」は、見て終わりだけの映画ではなく、対話とのセットで成立する「参加型の映画」なのです。「今の私達の周りにはどんな問題があるだろうか？」

「自分の境界線はなんだろうか？」

「今から出来ることはなんだろうか？」

映画という共通体験を通し、人と人が出会い、お互いを分かち合い、未来に向けて話し合うことで最初の一歩を踏み出す。私たちは、このシネマワークショップを通じ、福山そして瀬戸内に「未来に向かってシャッターを上げていく“場”」をつくっていきたく願っています。